

酒々井町郷土研究会々報

第86号

平成9年10月1日発行
酒々井町郷土研究会
広報部

本佐倉城跡周辺の散策(三)

高橋 健一

3 佐倉五箇寺と宝珠院

大桜山宝珠院は江戸時代には佐倉五箇寺のひとつに数えられた寺院でした。佐倉五箇寺とは、近世佐倉城主が代々重視し、城中の祈禱をつとめた真言宗の五寺院をいいます。具体的には宝珠院と、仏母山吉祥寺(現・酒々井町本佐倉)、愛宕山文殊寺(同上)、大広山密蔵院東光寺(現・酒々井町酒々井字横町)、岩橋山大仏頂寺(現・酒々井町下岩橋)が佐倉五箇寺にあたります。

佐倉五箇寺という呼称の起源は明らかではありませんが、佐倉城主稲葉氏の家臣磯辺昌言は『佐倉風土記』(享保七年成立)に「凡城中有新禱事、相与修之、

謂之佐倉五箇寺焉」と記してありますので、この時期にはすでにその呼称はあったようです。なお、この点に関して、それを戦国期まで遡及させ、この五寺院をもつて千葉氏の祈願所であったとみる説もありますが、周辺の歴史的景観からみてそのような事実関係はなかったように考えられます。

4 宝珠院の末寺

大佐倉には貞享元年(一六八四)以前から花蔵院(年貢除地一反八畝歩)、正宝院(年貢除地一反七畝歩)、住善寺(年貢除地一反二畝歩)、持空寺(年貢除地九畝歩)、正覚院(年貢除地八畝歩)という宝珠院の末寺がありました。

このうち、大佐倉村の文禄三年(一五九四)七月の検地帳には華蔵坊、正覚院が見え、慶長九年(一六〇四)閏八月の検地帳には正覚院・持空寺が見えま

す。宝珠院を中心として、その至近周囲にムラの親戚一族「マケ」の堂宇としての性格を持つこれら寺院が置かれたものと考えられます。

宝珠院の寺域北方にある延命山地蔵院住善寺(字大桜)は、地蔵菩薩を本尊とします。明治元年(一八六八)十月に全焼して宝珠院に引き取られ、以後木造茅葺一八坪の堂宇が再建されました。

花蔵院は宝珠院の南西側(字大桜)、持空寺は宝珠院の西側(字大桜)、正覚院は宝珠院の北東側(字浜宿)、正宝院は宝珠院の東南側(字大御堂)にありましたが、いずれも明治初年に廃寺となりました。このうち、正宝院が所在した場所の地字名「大御堂」は、慶長九年閏八月の検地帳にも「大ミとう」と見えます。正宝院の年貢除地が一反七畝歩あったことからみると、大御堂とは正宝院に由来する地名と考えられます。

5 花輪台の城跡

宝珠院、住善寺、花蔵院跡、持空寺跡がある台地先端の地字名は「花輪台」です。この地名

は大佐倉村の文禄三年七月の検地帳にも見えます。その語源は文字どおり台地の先端「ハナワ」に由来します。

印幡浦と浜宿湊跡(後述)、勝胤寺(後述)を見下ろすこの台地には土塁の痕跡がみられます。また、空堀が埋没したような畑地形や本佐倉城跡との位置関係からみると戦国期の城跡と考えて間違いないと思われれます。この点、いまだ定着した名称は与えられていませんが、外山信司氏により「浜宿城跡」の名称が提唱されています。(「戦国期の佐倉についての覚え書き」本佐倉城とその城下をめぐって)『佐倉市史研究』九号)。
なお斜面中腹には「千葉県中近世遺跡調査目録」(昭和四十六年)に「浪人屋敷跡」と登録された平場遺構がありました。が、ライスセンター建設により消滅しました。



回想

福田正吉

お盆を迎える旬日前、諸々の人々が何かと気忙しい八月十日でしたが、郷土研究会皆様の熱意が伝わって、元酒々井中学校長榎本先生の調査研究の成果である「利根川べりの女人信仰」の講演会が開催されることを知り、直ちに参加することを決めました。

先生とは遠くて近い昔日の出会いがあり今もなお御交際をさせていただいておりますが、直接講話としてお聞きする機会はありませんでした。いつか先生の書齋を訪れたことがありました。当時現職の校長さんでしたが、大変多忙の中でも調査したこと・発想したこと・記事にしたいこと等など、翌朝直ちに四百字詰原稿用紙にまとめた整理すること、すでに年度別に多くの綴りが書棚に整然と整理されていることを拝見しびっくりしました。仏教はシルクロードを経て、中国・朝鮮半島を通じて日本に到達する

までに千年の歴史があると聞きましたが、歴史を正しく保つことは新しさを創るよりなお困難だとさえ云われています。今回の掘り起こし研究発表も前述調査記録を原点として受講者に感動を与えたものだと思います。私共は発展進む北総台地に住み、利根川通称坂東太郎の流域に生の恵みを得ている今日、利根地方の文化・民の生活文化を知り得た意義は非常に大きいことと思えました。

帰路お送りすることになり車でまっすぐJR酒々井駅西口のロータリー前の大銀杏に案内しました。退職直後の著書「航跡」に当時小中校生と一緒に通学し、会話したことが記された「学校みち」の一文に載っていた思いをこめた銀杏であったからです。



開発により今は影も形もなくなり、駅前より酒々井小学校に到る急勾配南面の山道など記憶に残るものは何にもありません。ふと、「この大銀杏は残ったんですね。」と一言いわれました。歴史とはと考えさせられました。

「ゆりかもめ」の旅

正井和子

「明日天気は大雨の恐れあり、所によっては雷も」との天気予報は外れ。でも今日は外れの方が有難い。総勢43名、オレンジの旗を先頭に「ゆりかもめ」への旅の出発です。

泣き出しそうな空は途中では青空もみえ、皆元氣一杯。新橋につけば入気の的「ゆりかもめ」の乗車を待つ人が反対側のホームにもあふれるばかり一杯。来た来た話の種にと、皆が心弾ませた「ゆりかもめ」の思ったより小さな車体がいぶし銀に光っている。運転席のない明るい車内、出発までに大勢乗られ「暑い」とか「押されて大変」とか喧しい。走りだすと沿線の景色に「夕留駅跡だ」とか「あのビルは何々」とか臨時のガイドができて何も分からない私は見るのに忙しい。化粧タイルの歩道、刈りこまれた植木等新しい東京の顔。三角あり四角あり、そして球を抱いたビルビルビル……。

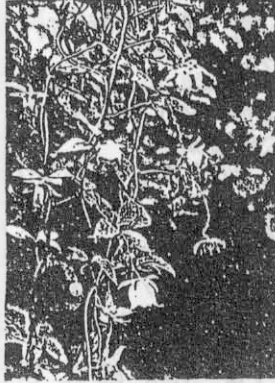
おとぎの国夢の世界そのままが実現して、人の知と力を知る。臨海副都心を下に空中を弧を描いて走る「ゆりかもめ」に有明終点まで乗る。有明では、ボツボツ降り出して来た。たいしたところなく引返し「船の科学館」で下車。海に面した昼食の席からは飛行機がふっと湧き出て羽田に降りる様は見えてあきす。料理の味も量も充分満足した。宗谷丸の見学では、南極観測隊の方々の苦学を偲び、夕口とジロの生命力に感動し、青函連絡船、半踏丸に乗り昭和30年代の世の営みに郷愁を感じたのは私一人ではなかったと思う。古き良き時代をかみしめたいですね。雨が本格的に降り出す。次に新設のフジテレビ局を見学する。エスカレーターや階段を上る。正面玄関と見る所は7階だ。長い階段だと思ったが何だか狐にバカされたみたいである。エレベーターで25階まで上ると球形の中に入る仕掛けなのだ。雨に煙った東京の街並を俯瞰する事が出来たが、ノツポビルがあちこちにある。東京タワーもさほど高いとは感じられない。東京は何処まで高く伸びるのかしら？ 台場駅から新橋へ着き、解散したかこの頃には雨も小止みになった。水と緑と人知の力を感じた一日でした。ブラボー！

梅雨入りか
ビルの真上に垂厚く
みると消え
消えると思えて跨線橋
宙にうきたる
浮世のテープ

初秋を告げる

ツルニンジンの花

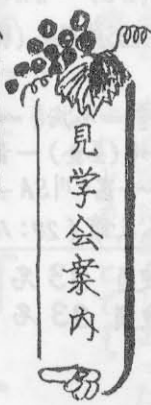
亀井香久乃



八月のお盆頃から九月にかけて咲く「ツルニンジン」についてお話し致します。ききよう科のこの草は、名前の通り左巻きの蔓草で、根はメークインに似た根塊です。蔓性の茎に、約五センチおきに四枚の葉が、一ヶ所につき、残暑から初秋にかけて葉脈に、直経二センチから三センチの鐘状の花が咲きます。花の外側は白緑色で、内側は臙脂色紫色の斑があり、其の斑点を老人性のそばかすに例えて、爺雀斑と別名もついています。地方によっては雀斑をソブと云う人達もいるそうです。

下向きに咲く花を覗き見れば、そこには自然界の持つ不思議な花の魅力に忘我の一時があります。其の蔓人蔘ですが、最近自生も少なくなり、山野草マニア

には貴重な部類になったようです。それが、当地区には、私の知る限りでは三ヶ所自生しています。毎年元気に伸びている葉姿は見ますが花は見ません。今年こそはと花の時期に歩いてみましたが葉だけでした。人通りのある里山の他草が叢生している道端に生えている故が、優雅な花を咲かせたら、己が拉致されるかも知れぬと恐れを抱き、花をつけないのかも知れません。植物の世界も最近では保身をはからねば種属を護れないのだと思います。



一泊見学会

10/28 10/29

岡崎方面

足助(愛知県足助町)

香嵐溪に沿って歩くと斜面一帯は楓の群生で秋の紅葉は見事で、香嵐溪の名は香積寺の香と京都嵐山の嵐を組合せたもの。足助屋敷の中には十二の建物からなり一部では職人たちが突演している。

滝山寺(岡崎市)

本堂は愛知県最古の建物。飛騨の内匠藤原光延作の山門は市内随一の建築美をほこる重要文化財。

松尾寺(岡崎市)

家康が人質として熱田より駿河へ行く途中、非業の死を遂げた父広忠の寺を詣でて松を植えた。天下取りの後この松にちなんで松尾寺と名づけた。

伊賀八幡(岡崎市)

松平四代親忠が氏神として伊賀から迎えたもので、家康は戦いの前に必ず参詣した。本殿・隨身門・神橋等々が重要文化財。

岡崎城(岡崎市)

五萬石でも岡崎様はお城の下まで船が着くというたわれ、家康の祖父松平清康が城主になって以来八代の居城。現在の城は昭和四十三年に復元され資料館になっている。大手門からくり時計・三河武士の館家康館本田平八郎と家康の銅像・二の丸能楽堂・産湯の井戸等見所多い。

フアンタージ館(蒲郡市)

五千萬個の貝を使った造形美は一見の価値がある。併設して宝石伝説館もある。

日帰り見学会

10/27 10/26

市原方面

上総国分尼寺跡(国指定史跡)

史跡上総国分尼寺跡は、市原市が古代上総国の政治文化の中心地であったことを象徴する歴史的文化遺産です。この尼寺跡に奈良時代の中門と回廊が復元公開されました。展示館も同時公開され、光と影の天平の時間と空間を体験します。

上総国分寺

国分寺が創建された天平年間初めは極彩色豊かな貴族文化が花開いた時代の印象と、裏腹に、異常現象が続き、作物が実らず、飢えや疫病に苦しみました。そこで社会不安や政治の混乱を佛教の力でしずめ、人びとの心をひとつにまとめるために、国分寺を建立したのです。

高滝神社

この神社は、標高八〇米の丘陵に鎮座し、日本三代実録に名を残す古社で、是非参拝し、家内安全の祈願をしましょう。小湊鉄道蒸気機関車

小湊鉄道の古い機関車で大正十四年小湊鉄道開業の際アメリカのポールドウィン社より輸入されたもの。他の一輛は、イギリスのピコック社製で日本鉄道が輸入し、以後、昭和二十一年から二十五年まで小湊鉄道で使用されたもの。しばしば往年の時代を遡り、当時を懐かしんでください。

野草部から

お知らせ



此の度の野草の観察会は、町バスが借りられましたので、千葉市の方へ出かける事にしました。町の中で野草は少ないかも知れませんが、手入れの届いた公園を散策するのもよいかと計画しました。御参加お待ちしております。

郷土研行事業案内

10月~12月

史談会	12月6日(土) 午後1時30分 中央公民館会議室 講師 高橋健一先生 ⑩ 10月・11月は休みです。 「史料に読む酒々井の歴史のひとこま」 ⑳
野草観察会	10月8日(水) バス利用 定員20名 申込受付・10月4日(土) 9:00 都市緑化植物園・県立中央博物館 (雨天決行) 受付場所・公民館ロビー 植物説明: 亀井香久乃様 会費・2,000円(弁当代含) 集合時間・8:45 公民館 出発時間・9:00
一泊見学会	10月28日(火)~29日(水) 宿泊先: 西浦温泉 東海園(0533-57-2161) 愛知県足助町・岡崎市方面 10/28(火) 会費 24,500円 公民館(6:30) - 幕張PA - リンボブリッジ - 東名 - 海老名SA 申込受付日 10月4日(土) 一日本平PA - 音羽IC - 音羽(昼食) - 音羽IC - 岡崎IC 時間場所 9:00 公民館ロビー 足助(見学) - 滝山寺 - 西浦温泉(東海園)⑩ 定員 45名 10/29(水) キャンセル 実施日5日前まで 西浦温泉(8:30) - ハ丁味噌 - 松浜寺 - 伊賀八幡 - 蓮絡先 会田秀雄宅(496-4861) 岡崎城・家康記念館 - 岡崎(昼食) - 音羽IC - 蒲郡 集合時間 6:20までに公民館入口 ファンテージ館 - 音羽IC - 富士川SA - 海老名SA - (都合により行程の変更もあります) リンボブリッジ - 幕張PA - 公民館(20:15) 着予定
日帰り見学会	11月7日(金) A班 定員 33名 (雨天決行) 会費 1,000円 11月26日(水) B班 定員 33名 市原方面 (行程) 公民館 9:00 - 市原国分寺 - 国分尼寺跡 申込受付 10月4日(土) 高滝神社(自由昼食) - 光風台 常住寺 時間場所 9:00 公民館ロビー 五井の蒸気機関車(小浜鉄道) - 公民館 16:30 出発日集合時間 8:45 キャンセル5日前まで 会田秀雄宅 蓮絡先 (都合により行程の変更もあります)
名勝探訪	12月3日(水) 京成酒々井駅集合 8:20 人形町方面 雨天代替 12月5日(金) (行程) 京成酒々井駅 → 人形町 → 大観音寺 → 甘酒横町 → 粟田美術館 → 水天宮 → 人形町 → 上野(自由解散) → 京成酒々井駅 (都合により行程の変更もあります)

名勝探訪

12月3日(水)

雨天代替 12月5日(金)

人形町方面

何かと話題の豊富な年
でしたね。今年最後の名
勝探訪となりましたが多
数ご参加下さい。

人形町駅近くの佛頭が
ご本尊の大観音寺にお参
りして、甘酒横丁をぶら
ぶらと散策しながら、古
伊万里焼や鍋島焼の作品
が多く展示してある粟田
美術館に、ここではゆっく
りと見学しましょう。

戌の日に安産のお宮と
して有名な妊婦で賑う水
天宮へ。懐かしい人も多
いでしょうね。人形町界
隈を後に上野へ。ここで
自由解散となりますので
アメ横に寄る人は千ヨツ
ピリ早い暮れの用意など
いかがですか。楽しい一
日を過してホットな気持ち
で家路に着きましょう。



虫の声も日増しに賑やかに
なり。コスモスの鮮やかな花
が風にゆれるよい季節になり
ました。

八月の郷土史講座で女人信仰
についてのお話をお聴きし、酒々
井の大仏頂寺には最も古い頃の予
安さまがあるとのこと、早速た
ずねて合掌してまいりました。

榎本先生の84歳とはとても思
えない張りのある声と入魂の
にじみでるお話し振りに、充実
した人生の中で、真剣に取り組
んでおられる様子が伝わって
ると共に、何か打ちこめるものが
あるといつまでも生き生きしてい
られることを実感しました。皆様
もお互いに頑張りますよう。

この秋も盛り沢山の行事が組ま
れています。皆様お誘い合わせ
て御参加下さい。

月日	内容	参加人数
9/30	親子年度郷土史講座(資料作成)町民会	10
7/2	町上	2
7/5	史談会「史料に読む酒々井の歴史のひとこま」⑩	19
7/8	郷土研実行委員会「資料検討」	14
8/10	郷土研調査委員会「利根川への水信仰」	25
8/12	会報編集会議(法報部)	5
8/20	研修部会議	9
8/26	部長会議 第4・4期行事について	11
8/2	会報編集会議(法報部)	6
7/3	野草観察会「見学(市原方面)」	4
8/5	運営委員会 第4・4期行事について	16
8/6	史談会「史料に読む酒々井の歴史のひとこま」⑩	13
8/19	名勝探訪(世田谷方面) 酒々井町民会	0
8/20	会報校正	6
8/26	名勝探訪(世田谷方面)	-
8/27	会報発行	20

